

型マルチサイクリングクラブとして、「山口サイクリングプロジェクト研究会」を新たに立ち上げたいと思います。・・・山口サイクリングプロジェクト研究会は、様々なサイクリング企画に対してアドバイスやサポートを行い、また空白部分のソフトの模索企画も行う先達集団で、以下のような組織図でマルチな活動を行うことを想定しています。～ と記してあります。

確かに「グループサイクリング」はグレーであり、ソフトの空白部分を生んでいます。それを埋めるチャンスは私が関係する中で、MTBブームとサイクルエイドジャパンの二回ありました。しかし現状の通りで、次があればと考えたのが、「サイクリストライセンス&ツーリズムメンテナンス」を具体化する「スーパー先達の所属する地域貢献型マルチサイクリングクラブ」です。言い換えるなら「大人サイクリストによる大人のサイクリングの普及」です。

そして、LCMCC持続化イメージ図「サークルナイン」の上半分は、日々のトレイル整備や人材育成や情報収集などの準備活動と、それを地元で周知し全国にアピールすることを「レディ&プロモーション」として、下半分は、三種の道に限らず様々なジャンルの玉石混交の自転車ソフトを「クローズド&オープン」として、それぞれ展開します。

それは正にマッチポンプであり、空白部分を含む情報発信のためのネタ作り企画は、自転車遊びの機会均等にに向けた、ノウハウの蓄積・移植・共有に他ならず、必然的に人材交流が促進されると考えられ、その延長で、春需でソフトを供給することを目指し、Fig.8にある希望的展開案を組み合わせ、以下のように模索企画の具体化を行い、持続化に繋がればと思います。

長々と書きましたが、日常利用とスポーツ利用を繋ぎ春需でソフトを供給する「先行・地域貢献型マルチサイクリングクラブ山口」の「展開指針/背景～経緯～理念～補完」は、「自転車市民権獲得を阻む壁」～「対処療法では解決できない宿題」～「ノウハウの蓄積・移植・共有」～「標準化と具体化と持続化」ということになります。

また時期尚早とされる“ツーリングコンペティション”は、アングラ化したジャンルもありますが、THT26のように追認されたものもあり、全国的にも空白部分の補完企画として、その可能性を探りたいと思います。(※注6)

※注6: Fig.5の応用企画四選の2つは一般のサイクリング大会化していますが、ひとつは山道走行問題を抱えながら国内のMTBイベントの砦となっており、もうひとつは、国際基準に翻弄されながらもワールドシリーズとなっています。そのふたつはグローバルと日本の矛盾の中で揺れています。自由な発想の子どもと、ルールの中の大人のサイクリング。これも矛盾していますが、大きな声では言えませんが「裏タスクフォース」として向き合いたいと思います。

模索企画その零 / 人材交流と情報発信企画

A欄 (LCMCC/D1+E1): 山口サイクリングプロジェクト研究会・準備室

B欄 (人材交流/D欄+E欄+E2): 定例会とホワイトミーティング

C欄 (情報発信/D1+E1): スポーツサイクリングの編集・発行

模索企画その壱 / 自転車ネットワーク再構築企画

街道 (D3+E4+E5+E6+E10) / 山口ブルベ・サポートサービス

街道 (D3+E8+E10) / サークルナインファミリーサイクリングスクール

模索企画その弐 / MTBが地域を救う企画

山道 (D2+E7+E9) / やましろ柚道再生計画

山道 (D2+E4+E5+E7) / チョイス型らん清流ジオツアーズ

山道 (D2+E7+E9+E10+α) / オレンジトロフィーMD24時間in十種ヶ峰

模索企画その参 / 地域資源再発見企画

町の道 (D3+E8) / 自転車さんぽ◆山口セレクション

町の道 (D3+E8+α) / 山代街道ファミリーアドベンチャーゲームズ

実施内容の詳細等は、ホームページのリンク先をご参照下さい。
<http://www.bike-joy.com/EVCY.htm>
山口サイクリングプロジェクト研究会準備室
〒742-0021 山口県柳井市天神並木通り CSヒロシゲ内
TEL/090-5573-9372 FAX/03-6368-4661
E-mail/LCMCCyamaguchi@docomo.ne.jp



各模索企画の具体化や優先順位については、別紙をご参照下さい。

山口サイクリングプロジェクト研究会準備室/発起人一同
弘重公朗/代表、志賀孝治、石丸英明、福永一生、棟久明博、常原圭介、内富哲男、松岡稔